

# ピックス

## 「湯活ワーキングラボ・土湯ベース」オープン 土湯温泉でワーケーション

### 新たな働き方の創出

福島市土湯温泉に10月下旬、「湯活ワーキングラボ土湯ベース」がオープンする。温泉旅館でバケーション（休暇）を楽しみながら、コロナ禍で導入されつつあるリモートワークを組み合わせた新たなワークスタ



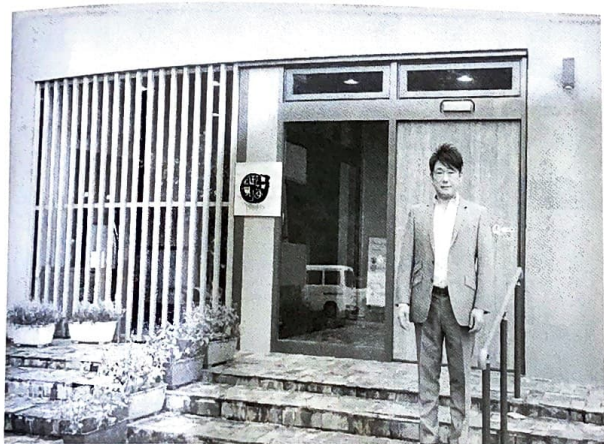
土湯ベースプロジェクトメンバーによるミーティング

イルワーケーションの創出を目指すしていく。

福島市の㈱オーダーメイドジャパン（中野友登代表取締役社長）が、土湯温泉の日帰り温泉「御とめ湯り」を運営するH.E.A.R.T計画㈱（加藤貴之代表取締役社長・土湯温泉観光協会長）の支援を受けて開設する。オーダーメイドジャパンは、JR福島

駅前前で異なる職種の人たちがオフィス環境を共有するワーキングスペース「Fukushima BASE E（福島ベース）」を運営、各種勉強会も開催している。御とめ湯りの宿泊施設にある3LDKのシェアルームを、ワーキングスペース、ミーティングスペース、テレワークブースを併せ持つ「土湯ベース」に改修する。現在、地元大学生や若手クリエイターで立ち上げた27人のメンバーがプロジェクトを進めている。

中野社長は、



「未来を担う若者への投資です」と、加藤社長

「福島駅からすぐの距離にある自然に恵まれた温泉地を活用しない手はない。コミュニティを広げて福島の魅力発信して人を呼び寄せ、首都圏などで働く人に利用してもらいたい。学べる環境でスキルアップした人材がそろえば、県外から仕事を持つて来られるようになる。地方

を主役にしていきたい」

と意欲を見せる。また、プロジェクト副リーダーの佐藤大輝さんは、「メンバーの6割以上は学生で、私もその一人です。プロジェクトにかかわれることはうれしい。たくさんの人に注目して欲しいですね」と思いを語る。

### ワーケーションと連携した

#### 体験レジャーを提供

加藤社長が会長を務める土湯温泉観光協会では、10月10日から同温泉にある女沼で、体を動かして自然を楽しむアクティビティー体験を展開していく。まずは実証実験として、インフルエンサーなどにサップ（SUP・スタンド・アップ・パドルボード）やカヤック体験を提供し、5年間で年間50万人の誘客を目指す取り組み「土湯アクシオン20-25」を本格始動させる。加藤社長は、

「宿泊施設では新たにワーケーションプランを考案中です。長期滞在しながら働くことが出来るワーケーション観光地」の展開に力を入れていく。土湯ベースとの相乗効果も大いに期待出来ますね」と展望を語る。